

第3章 県内各地域における実施状況

東部地域 「地域を磨いて花を咲かそうー高知東海岸 100 物語」

<p>観光ビジョンの方向性</p>	<p>グリーンツーリズム等による体験型観光・交流の創出と地域の活性化 「暮らしの原点に触れ合う旅」をテーマとし、ノスタルジックな旅や自然体験の旅を創出する。</p> <p>1. 地域資源を活用した観光開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○100箇所程度の見どころ、イベント、食、体験メニューをつくる ○東部地域の魅力を発信する（地域のイメージの確立） ○実施に向けた組織づくり、ネットワークづくりに取り組む <p>2. 観光ビジョンづくり5ヶ条</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民が豊かに暮らせる地域であること ○来訪者が喜ぶ地域となること ○観光資源を磨くこと ○高知県東部を広く知らせること ○広域的な連携・ネットワークをつくること
<p>地域の主要な動き</p>	<p>東部地域の観光ビジョン策定メンバーが中心となって「高知東海岸100物語実行委員会」を開催し、テーマ別の観光資源の発掘や課題の抽出を実施している。こうしたメニューのうち、熟度の高いものについては、地域の観光資源を組み合わせた観光ルートづくりを行い、ごめん・なはり線を活用した観光商品の造成を行っている。広域的な連携の取組みとして、東部地域の街なみ保存に取り組む団体のネットワーク化が進み、連携したイベントが開催された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高知東海岸100物語作成事業（高知県東部観光開発促進協議会） <ul style="list-style-type: none"> H17テーマ 町並み・花めぐり・海遊び・川遊び H18テーマ モノづくり・食・ハイキング・産業観光 ○自然・田舎体験ツアー（ごめん・なはり線活性化協議会、安芸広域市町村圏事務組合） <ul style="list-style-type: none"> ごめん・なはり線と新たに導入したボンネットバスを活用した地域ツアーを開催 H17 5コース H18 10コース H19 6コース ○出張！高知東海岸 海・山体験なんでも新鮮市の開催（安芸広域市町村圏事務組合） ○「高知東海岸魅力発見スタンプラリー」の実施（ごめん・なはり線活性化協議会） <ul style="list-style-type: none"> 南国市～東洋町までの施設によるスタンプラリーの実施 ○ダルマ太陽・高知東海岸をモチーフとした展示会等情報発信事業の実施 ○高知東海岸町並みネットワーク会議を設立し、ひなまつりイベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> 室戸市、安芸市、田野町、安田町、奈半利町の街なみ保存グループのネットワーク化 ○JR四国と土佐くろしお鉄道が連携し、ウォーキングや日帰り旅行を企画実施 <ul style="list-style-type: none"> H18 駅からウォーキング大会3回 H19 駅からウォーキング大会6回 駅長推薦「あじな散歩道」9コース ○奈良県の進学塾の体験合宿の受入れによる教育旅行の受入態勢の整備
<p>課題・今後の取組み</p>	<p>2年間の取組みによりテーマ別の観光資源の発掘と整理が徐々に進んでいる。また、これらのテーマは、旅行商品の企画・実施につながっている。現状では、県内からの観光客が中心となっていることから、今後は、県外からの観光客の誘客への取組みを進めていく。また、東部地域には、ブラッシュアップをすれば、集客の見込める観光資源が多く残されている。以上のことから、引き続き、観光資源の発掘や課題の整理を継続しながら、個々の観光資源の連携やパッケージ化によって、付加価値の高い体験・交流メニューとしてPRを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「高知東海岸100物語」の県内外への認知度の向上 ○東部地域の県外観光客への認知度の向上 ○広域で情報発信していくために、観光推進態勢の整備（ビジターセンター等の検討）

南国・香美地域 「あなたも一日地元民」～地域の暮らしと文化をタノシムしくみづくり～	
観光ビジョンの方向性	<p>観光客のニーズが多様化し、地域の暮らしや自然、文化など地域独自の魅力を生かした体験型・交流型観光へとシフトしている。こうした資源の観光商品化にあたっては、地域資源の磨き上げや魅力的な情報の発信が必要となる。</p> <p>地域資源の発掘、情報の整理や発信について、コーディネート機能の充実が不可欠なことから、モニターツアーの開催を通じて、地域コーディネート組織のあり方を検討していく。</p>
地域の主な動き	<p>南国・香美地域における観光ビジョン策定委員や行政関係者が中心となって、南国・香美「旅の福袋楽会」を立ち上げ、地域の観光資源を組み合わせたモニターツアーを実施。これにより、観光客の受入の課題について整理を行った。香美市（旧物部村）では、平成15～17年の3年間、豊かな自然を生かした体験型観光の取組みを進め、各地域の観光資源のプログラムづくりや情報発信に取り組んだ。南国市では、地元の食材を生かした料理を提供する施設によって、グリーンツーリズムが進められた。</p> <p>また、教育旅行の受入整備として、香南市（旧夜須町・旧香我美町）では、本山町と連携して、山と海の体験メニューのプログラムづくりやモニターツアーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○南国・香美「旅の福袋楽会」によるモニターツアーの実施（平成17年3月～平成18年6月の間において8回開催） ○旧物部村における奥ものべ体験型観光の推進（「自然あそび」「農林業」「歴史と文化」「食」の体験プログラム化） ○地産地消を推進し、郷土料理を提供する南国市内の農家レストランの取組み ○奈良県の進学塾の体験合宿の受入れによる教育旅行の受入態勢の整備 ○香美市物部町～香南市赤岡町を結んでいた「塩の道」のルート復元の地域活動
課題・今後の取り組み	<p>奥ものべ体験型観光については、地域体験ツアーの企画や実施を進めていることから、体験ツアーのPRなどの情報発信を積極的に行っていく。</p> <p>教育旅行の受入態勢の整備については、3年間の取組みにより、一定のメニューが整ってきたことから、地域のコーディネート機能を構築していく。</p> <p>地域活動としての「塩の道」の復元については、「花・人・土佐であい博」プレ事業における推進委員会事業としての実施を生かして、ウォーキング・プログラムとしてのブラッシュアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奥ものべ体験型観光メニューの商品化の支援 ○体験メニューを提供する地元各団体の組織化による窓口の一本化 ○旅行業免許を取得した観光コンベンション協会との連携・活用 ○香南エリアでのルート表示の整備、観光ガイドマニュアルの作成等によるガイドボランティアの育成

観光ビジョンの方向性

嶺北地域にある豊かな自然や歴史の中で育んできた地域の生活や文化、地域の人との交流を促進するためにグリーンツーリズムに取り組む。

1. 具体的な取組み
 - 日帰りメニューを増やして行く
 - 今あるものをつなげて新しい魅力をつくろう
 - 土地や施設の有効利用をはかろう（農園オーナー制度）
 - 宿泊可能なメニューづくり
 - 本格的なグリーンツーリズムの展開
2. 情報網のシステムを整える（ホームページ・人のネットワーク・情報拠点の整備）
3. 宿泊施設の確保（農泊・空家・休廃校の利用）
4. 嶺北ツーリズム研究部会の継続
5. コーディネート組織の発足・育成

地域の主な動き

グリーンツーリズムの具体的な展開として、本山町と土佐町が連携して、大阪府のNPO法人「千里の会」を窓口とする「棚田農村農業体験交流ツアー」を開催した。大豊町内においても地域ツアーが実施された。教育旅行を受入れるため、本山町では香南市との連携により、山と海の体験メニューのプログラム化やモニターツアーを実施した。また、本山町内にある休校校舎の利活用の検討を行い、平成20年度に宿泊施設として開設することとし、現在、そのための整備方法や運営方法の仕組みづくりに向けて取り組んでいる。大川村では、エコツーリズムや花・人・土佐であい博と連携した山岳観光等を検討している。

- グリーンツーリズムの実施
- 奈良県の進学塾の体験合宿の受入れによる教育旅行の受入態勢の整備
- 休校施設の利活用の検討と地域の態勢づくり
- 山岳観光のメニュー化

課題

グリーンツーリズムに関連した地域ツアーが開催されていることから、農業体験や間伐体験ツアーの実施など、ターゲットを絞った取組みを継続していく。また、吉野川流域は、日本でも有数のラフティングの体験ポイントであり、徳島県との県境には、県外からの観光客が多数訪れている。こうした観光客を対象に、宿泊施設と連携したメニューづくりの検討を行う。

今後の取組み

- 農業体験や間伐体験、山岳観光メニューの商品化とターゲットを絞った情報発信
- 休校校舎を活用した地域交流の仕組みづくり
- ラフティングなど吉野川を生かした観光メニューの情報発信
- 広域で情報発信していくために、観光推進態勢の整備（ビジターセンター等の検討）

中央地域 「土佐人」をテーマとした観光

<p>観光ビジョンの方向性</p>	<p>観光の目的や意味が多様化、複雑化しており、「ふれあい、交流」や「体験」が注目を集めていることから、観光客の充実感につながるような、新しい観光の推進が必要である。具体的には、「食」・「自然・空間」・「地域文化・生活様式」など「土佐人がこだわりを持っている」素材をベースとした、魅力的な旅の提案や受入態勢づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「セカンドツーリズム」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドライフを楽しんだり、リピーターにつながる旅など特別な旅の提案 ○「土佐流もてなし」文化のビジネス化 <ul style="list-style-type: none"> ・土佐人の「こだわり・とっておき」や「昔ながら・しきたり」を観光客に提供する仕組み ・高知市中央部への「直販市場」の出展展開（「土佐のくらし」や「土佐流の商い」の提供） ・滞在時間を増やし、宿泊につながるような新たな観光メニューの提案（もてなしツアー） ○「まなび型歴史観光」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史をまなぶウォーク」の展開（講座形式のコースづくり・歴史観光のルートづくり） ・観光モニターによる観光ルートの点検（「新しい気づき」と「お薦めコース」の検討） ○「風格の漂う街」エリアのネットワーク化 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史をまちづくりに活かすために、景観や環境美化に取り組む地域の支援 ○「とさ・つれびとガイド」の意識づくり <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドボランティア・インストラクターによる、もてなしの態勢づくり ○「総合学習」の時間を活用した子供たちによる案内体験 ○「功名が辻」のイベントを活用した人づくり・組織づくり ○「ぶらり観光」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・路面電車やバスを利用した観光スポット巡り ・ウォーキングイベントの実施やレンタサイクルを利用したプランの検討
<p>地域の主な動き</p>	<p>大河ドラマ「功名が辻」の放送に合わせて、平成18年4月1日から平成19年1月8日の283日間、高知城一帯の3会場で「土佐二十四万石博」を開催した。期間中の入場者は、614,155人となり、県外からもたくさんの観光客に来ていただくと同時に、全国に向けて高知を知っていただく機会となった。</p> <p>観光入込み客数の落ち込む冬季の新たなイベントとして、高知の食・文化など土佐を感じることのできる様々なイベントを集めた「土佐のおきゃく」を開催した。</p> <p>「よさこい」のブランド力を活かし、夏休み期間中の誘客の拡大を目的とした、特別イベントを高知市中心部で開催した。</p> <p>「土佐二十四万石博」による誘客効果を継続していくために、平成19年4月に「高知城花回廊」を開催した。桂浜の活性化及び誘客に結びつけるためのソフト・ハード事業を整理した「桂浜観光振興計画」や、日曜市などの街路市の活性化を目的とした「活性化構想」が策定された。</p> <p>また、鏡吉原地区や土佐山中川地区では、グリーンツーリズムやホテル鑑賞を目的としたイベントの開催により、高知市内を中心に観光客が訪れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「土佐二十四万石博」の開催と関連イベントの実施 ○閑散期における誘客を目的とし、土佐流のもてなしをテーマとした「土佐のおきゃく」や「高知城」を活用したイベントの実施 ○「よさこい」の活用 ○桂浜及び日曜市の活性化に向けた振興計画等の策定 ○高知市鏡地区や土佐山地区におけるグリーンツーリズム等の取組み
<p>課題・今後の取組み</p>	<p>「花・人・土佐・であい博」を通じて、県外観光客をターゲットとした情報発信やエージェントとのタイアップによる商品づくりにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「花・人・土佐であい博」における、新たな観光資源の商品化・情報発信 ○他地域との連携によって、滞在時間の増加につながる観光メニューの開発や、観光消費額の増加に取り組む ○広域で情報発信していくために、観光推進態勢の整備（ビジターセンター等の検討）

仁淀川地域 山・川・海をまるごと体験	
観光ビジョンの方向性	<p>観光旅行のニーズや形態が、周遊型の団体旅行を中心としたものから、地域の暮らしや産業を体験するグリーンツーリズムなど、個人やグループ旅行にシフトしている。こうした中で、仁淀川地域は、都市部に隣接しており、宿泊や交通条件面で優位性のある地域と言える。「仁淀川地域のお得意さんづくり」に向けて、地域での受入態勢づくりを段階的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域内の観光関連事業の従事者、住民、行政、NPOが中心となって、観光の担い手のネットワークづくりを行う。こうした組織により、地域内の観光スポット調査、農泊の体験・実験、観光コミュニティビジネスを検討する。 ○積極的な情報発信 ホームページ・ガイドブックの整備、現地案内の仕組みづくり ○観光地として磨きをかけるために、体験型観光の取組みや新しいスポットづくりとツアー化の検討、山・川・海の拠点づくり ○修学旅行の受入プログラムの整理、コースの設定、モニターツアーの実施 ○県内の他の観光施設との連携、観光コーディネート機能の育成 ○仁淀川地域の観光のための土地利用計画づくり
地域の主な動き	<p>いの町では、町村合併を契機として、「いの町観光協会」が設立され、観光資源の活用プランづくりを行った。また、7軒の農家民宿が開業するとともに、「いの町グリーンツーリズム研究会」が発足し、受入メニューの整理や一体的な情報発信を実施している。土佐市では、「宇佐しおかぜ公園」の活用方法の検討、佐川町では、歴史的・文化的建造物を生かした新たな観光案内所の設置や、観光ガイドの仕組みづくりがスタートした。また、越知町では、地域活性化グループによる体験ツアーが実施されるなど、交流人口の拡大の取組みが進められた。</p> <p>広域的な情報発信を目的として、仁淀川流域の観光スポットや旬の情報を掲載したポータルサイト「仁淀川お宝総合案内所」を開設し、地域内の情報発信を行っている。</p> <p>また、教育旅行の誘致のために、土佐市のホエールウォッチングやいの町のカヌー体験をメニューとした環境学習型修学旅行の商品化や旅行会社を対象とした研修事業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いの町グリーンツーリズム研究会と農家民宿の開業 ○「いの町観光協会」の設立と町の資源活用プランづくり、紙のイベントの実施等 ○宇佐しおかぜ公園の活用に向けた検討 ○佐川の街なみを生かした観光案内の仕組みづくり ○越知町の地域活性化グループによる地域ツアーの実施 ○仁淀川地域の総合的な情報発信を目的としたポータルサイトの開設
課題・今後の取組み	<p>いの町のグリーンツーリズムや佐川の街なみを生かした観光ガイドの仕組みづくりなど新たな動きが出てきたことから、こうした観光資源の発掘・育成を進める。また、仁淀川を活用した観光メニューづくりなど、個々の観光資源の発掘や磨きあげを実施していく。こうして出てきたメニューのルートづくりや高知市の宿泊施設や観光施設との連携の強化を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グリーンツーリズムや他の観光メニューを組み合わせたルートづくりと積極的な情報発信 ○佐川の町歩き観光ガイドの育成 ○仁淀川を活用した新たな観光メニューづくり ○高知市内の宿泊施設との連携

高幡地域 心からのもてなしのあるところ	
観光ビジョンの方向性	<p>地域に豊富にある「体験型観光交流の種（シーズ）」を生かして高幡地域全体の官民の連携で、体験交流型の観光需要を受入れる。山・川・海の変化に富み、豊かな自然とそこに住む住民のありのままの生活を魅力にして、高幡地域を元気にする。</p> <p><取組み内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 道路沿いを花でいっぱいにする 2. 知人に接するように気軽にあいさつをする 3. 各市町村単位でコーディネーターをつくる 4. 高幡地域全体で連携するネットワークをつくりだす 5. 農山漁村の体験交流を担う女性リーダーの育成 6. 体験交流の指導者の育成 7. 経験豊富な高齢者の力を借りる 8. 県事業や企業活動と積極的に連携を図る 9. 情報発信の充実 10. 体験型教育旅行の受入れ 11. 休廃校施設の交流施設への転用
地域の主な動き	<p>各地域において、地域の観光資源を生かしたグリーンツーリズムや教育旅行の受入れを目的とした体験型観光が進められ、プログラムづくりや人材育成、ホームページ等の整理などの情報発信に取り組んだ。また、津野町では、「森林セラピー」を活用した交流メニューづくりを進める中で、食の魅力を生かした取組みや観光案内の態勢づくりを進めた。須崎市では、まち全域をサービスエリアとして、サービス提供態勢の確立に向けた方策が検討された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドラゴンカヌー体験型教育旅行の受入態勢づくり（須崎市） ○町内3地域での地域資源を生かした体験型観光推進事業の実施（中土佐町） ○津野町観光ビジョンの検討と森林セラピーを核とした滞在型・交流型観光の取組み（津野町） <ul style="list-style-type: none"> ・風の里公園を生かした交流人口の拡大を目指した取組み ・津野町観光案内ネット会議や交流拠点施設ネット会議によるもてなしの態勢づくり ○津野町と中土佐町の観光メニューを組み合わせたルートづくりや旅行会社の招聘ツアー ○奈良県の進学塾の体験合宿の受入れによる教育旅行の受入態勢の整備 ○農家民宿・農家レストランを生かしたグリーンツーリズムの展開（梶原町） ○体験メニューや地域の食材を活用した「おもてなしツアー」の開催や農家民宿の開業（四万十町） ○廃校となった小学校の一部を宿泊施設として活用を検討（四万十町） ○中土佐町までの高速道路の延伸に備えて、まち全域のサービスエリア化を目指した、SAT（サービスエリアタウン）構想を策定（須崎市）
課題・今後の取組み	<p>体験型観光のメニューづくりやグリーンツーリズムの受入態勢が整備されてきた。こうした、新たな資源を組み合わせたルートづくりや商品化、情報発信を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林セラピーを核とした交流メニューの商品化 ○高幡地域の県外観光客や旅行会社への認知度の向上 ○教育旅行の受入れに向けた、地域エージェント組織の育成 ○須崎市や津野町での観光客へのもてなしの態勢づくりへの支援

幡多地域 人に出会い・人が育つ観光を目指して	
観光ビジョンの方向性	<p>観光事業者以外の地域住民の方にも積極的に観光に関わってもらい、地域ぐるみで来訪者をもてなす土壌を作っていく。自然体験型の観光メニュー以外に田舎体験などの地域に根付いた体験メニューを活用して観光客を受入れることを目指す。</p> <p>(幡多地域の将来目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然環境の保全と再生活動を行う。観光で利用する際には、環境に負荷を与えない形で取り組み、昭和30年代頃の状態を目指す。 ○通年楽しめる観光メニューづくりを進める。四季折々の風景や行事、地域資源を生かした観光メニューづくり ○人に出会う場の創出と人材の育成、農家民宿の受入態勢の整備や地域の文化などを伝えるガイドの育成 ○様々な観光ニーズに対応できるように、幡多広域観光でのネットワークづくりを行う
地域の主な動き	<p>幡多地域は毎年2千人以上の教育旅行の受入れを行っており、修学旅行の行き先として定着しつつある。一層の受入態勢の充実を目的として、「農山漁村生活体験ホームステイに係るガイドライン」を活用した教育旅行のホームステイを進めており、最近の教育旅行のニーズに合った取組みにつながっている。また、農林漁業体験民宿が増え、既存の宿泊施設とは違った素朴で飾らないおもてなしに取り組んでいる。自然体験型のメニューについて、各地でいろいろな組織が作られ、勉強会や講習会などを実施し、新規メニューの開発や既存メニューのレベルアップに取り組んでいる。</p> <p>農業、漁業の体験メニューが徐々に増えてきており、既存のメニューと合わせて教育旅行の中心的なプログラムができるなど成果が出てきた。</p> <p>「四万十川広域観光推進協議会」では、幡多地域全体の周遊ルート作りや、地域の食を観光面で生かす取組みなど観光地域づくり実践プランを進めている。「四万十かいどう」では、南予との連携で沈下橋や棚田、畦道などのライトアップなど、既存の風景を一味違ったものにして全国に発信をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育旅行におけるホームステイの活用と地域メニューの商品化 ○奈良県の進学塾の体験合宿の受入れによる教育旅行の受入態勢の整備 ○農林漁業体験民宿の開業 ○四万十川観光実践プランの実施（四万十川広域観光推進協議会） ○景観を生かした観光地づくりの取組み（四万十かいどう推進協議会）
課題・今後の取り組み	<p>幡多地域が一体となった取組みを目標としているが、十分とは言えない状況であり、全体的な取組みにつなげていく必要がある。</p> <p>効率的な情報発信や、体験メニューの現場対応などを行うために、着地型エージェント機能をもつ組織の設立が必要であり、有効かつ適切な規模の組織を研究するために、市町村や関係団体との協議を進める。また、「幡多広域観光協議会」の活動と連携して、各種プログラムのレベルアップや安全対策の強化などを行い、教育旅行を中心とした観光客からの信頼を維持することに取り組む。</p> <p>農業体験や漁業体験への地域の皆さんの関心も高くなり、プログラムも増えてきたものの、内容的に検討が必要なものや、安全対策などレベルアップが必要なものも多く、市町村や関係団体と連携しながら、取り組んでいく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○四万十川観光実践プラン事業の推進 ○地域に密着した観光資源のプログラム化 ○一般旅行客をターゲットにした、着地型エージェント組織の設立検討 ○広域で情報発信していくために、観光推進態勢の整備（ビジターセンター等の検討）